

●2024 年度 中国語課題文（ソロ部門）

《故乡》结尾 鲁迅 《Gùxiāng》 Jiéwěi LǚXùn

我想：希望本是无所谓有， 无所谓无的。 这正如地上的路； 其实地上本没有路， 走的人多了， 也便成了路。	<b>Wǒ xiǎng : Xīwàng běnshì wúsuǒwèi yǒu, wúsuǒwèi wúde。 Zhè zhèngrú dìshangde lù; Qíshí dìshang běnméiyǒu lù, zǒude rén duōle, yě biànchéngle lù。</b>	思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、 ないものともいえない。 それは地上の道の様なものである。 もともと地上に道はない。 歩く人が多くなれば、 それが道になるのだ。
---	--	--

(竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記』岩波文庫、1955年)

[解説]

鲁迅(1881～1936)の小説『故郷』の最後の一段である。鲁迅は中国近代文学を代表する作家であり、この『故郷』の他にも、『阿Q正伝』、『藤野先生』など日本人に親しまれている作品も多い。高村光太郎の詩「道程」の一節——「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」と混同されがちだが、「道」に込められた想いはかなり異なるものである。是非、作品全体にも興味をもって欲しい。近年、竹内好の訳文には不正確との批判もあるが、文法的正確さを重んじた訳はツマラナイので、あえて竹内訳をあげた。